Q農業支援策を問う

A町の特性を活かした施策を進めたい

浅野富男議員

問　農業を取り巻く状況は極めて厳しい状況にある。歴代の政治では、自由貿易の名の下で農業が最も犠牲にされてきた産業とも言える。

　食糧を海外に依存することは輸入の拡大を押し進めることになる。またこれと並行して国内の生産物を市場原理のみにゆだねる政策は、輸入品との格差のために消費が落ち込むという結果を招いている。

　このような状況の下で再生産に結びつくだけの報酬が少ないために、次世代の担い手がなかなか育たない状況にある。全国的な数値では、65歳以上の農業従事者が58％を占めている。

　本町でのこれからの農業政策はどのように発展させることが可能か。

町長　国見町の農業の発展を考える場合二つの要素があり、その一つは、町の資源、あるいは地域の特性をいかに活かすかということ。おいしい米、くだものが豊富に栽培され、品質のよい野菜も生産されている。交通網の良さ、多様な文化財など潜在的な可能性がある。もう一点は、社会的要請と制度政策を把握して進めること。消費者のニーズは何なのかをよく見極め、関係団体や機関と連携を取りながら農業の政策を推進していきたい。

問　若い世代の中での農業に関するものでは、日本学校農業クラブというものがあり、主として高等学校の中で活動しているが、これに対してはどのように考えているのか。

町長　県内では12校が加盟していると聞いているが、この活動を発表する場として、プロジェクト発表会とか、農業情報処理協議などの全国大会等も開催されていると聞いている。

問　本町では、各種スポーツ大会出場者には支援を行っているが、農業に関する大会にも支援があってもいいのではないか。

町長　農業高校が国見町にあるのなら別だが、農業クラブに対してだけは難しい。

問　大会の出場は、本人はもとより農業に関心のある人達にとっても励みになることではないか。

町長　そういうことがあれば、今後検討したい。

農業は町の基幹産業

議会ホームページもご覧ください

　議会日程はもちろん、議会だより、議会内容を記録した会議録、議会生中継をしています。
　ぜひご覧ください。